

他者と比べる？ 自分と比べる？——比較表現の意味論

英語の形容詞・副詞の多くは比較変化(comparison)をするのが特徴です。比較変化とは、元の形(原級)が形を変えて比較級(comparative)・最上級(superlative)になることを指します。英語の形容詞・副詞の比較変化は、元の形に接尾辞(-er, -est)を付けて作る屈折的比較変化(inflexional comparison)と別の語(more, most)を足して作る迂言的比較変化(periphrastic comparison)に大別されますが、意味の面ではこのような形態的な観点とは別の観点から比較表現を分類することができます。そのような観点の一つとして、比較表現における**比較の主体と対象の関係**があります。次の例を見てみましょう：

- (1) Jane is more healthy / healthier than her sister (is). (Quirk et al. 1985: 1128)
- (2) I spend more than do my friends. (Quirk et al. 1985: 1382) (my friends と do の倒置に注意)
- (3) Oil costs less than would atomic energy. (Quirk et al. 1985: 1382) (atomic energy と would の倒置に注意)

(1)–(3)はそれぞれ、「Jane」「私」「オイル／石油」という「**比較の主体**」が「Janeの姉[妹]」「私の友人たち」「原子力」を「**比較の対象(basis of comparison)**」として、それぞれ「健康の度合い」「使うお金の額」「コスト」という「**比較の基準(standard of comparison)**」に関して比較されているものです(cf. Quirk et al. 1985: 1127, 1128)。(1)–(3)においては、**比較の主体と対象がそれぞれもともと異なる事物**((1)では「Jane」と「Janeの姉[妹]」、(2)では「私」と「私の友人たち」、(3)では「オイル／石油」と「原子力」)ですが、比較表現の中には**比較の主体と対象に同じ事物が関わる場合**もしばしばあります。次の例を参照：

- (4) I have never been happier (than I am (now)).
- (5) We are better off now than we were five years ago.
- (6) Nowadays people spend more time away from their jobs than ever before. (1992年度大学入試センター試験)
- (7) Human life today is longer and healthier than ever before in the history of the world. (伊藤 1977: 238)

(4)は比較の主体は「私」ですが、比較の対象にも「私」が登場し、比較の主体と対象には同じ事物(この場合は同じ「人」)が関わることになります。ただしこの場合、両者は「私」という人が関わる「時」が異なっており、前者は「現在に至るまで」、後者は「現在」ということです。すなわちこの文は、**同一の事物[人]を異なる「時」において比較したものである**ということです。(5)–(7)も同様であり、それぞれ「われわれ」「人々」「人間の生命／人生」という**同一の事物[人]**を「現在と5年前」「最近と以前」「今日と以前」という異なる「時」において比較した表現であると言えます。(7)は有名受験参考書にある例ですが、同書には次のような例も出ています(皆さんご存知かもしれませんね)：

- (8) Specialization of function has its dangers but it enables man to achieve far more than he would if everyone were an all-round man. (伊藤 1977: 225)

(8)は構文が少し複雑なのですが、含まれている比較表現の基本は(4)–(7)の場合と同じです。すなわちこの場合は、「人間(man)」という**同一の事物[人]**を、「現実世界と仮想世界」という異なる「世界」において比較したものであるということです。同類の他の例として、次のようなものもあります：

- (9) He is more timid than he looks. (ライトハウス和英 第1版, 「みかけ(見掛け)」)
- (10) She looks older than she really [actually] is. (ライトハウス和英 第1版, 「じつさい(実際)」)

これらはそれぞれ、「彼」「彼女」という**同一の事物[人]**を「実際と見かけ」という異なる「相」において比較した表現ということになります。

上の(4)–(10)は比較の主体と対象に**同一の事物**が関わる場合の表現ですが、**同一事物**についての比較の表現の中には上の例のような比較の要素(比較級の形容詞や接続詞の than)が表層に現れないものもあります。次の例を参照：

- (11) improve the situation, reduce one's weight, downplay nuclear threat

(11)は improve, reduce, downplay という動詞を中心とした表現ですが、これらの動詞は辞書では各々次のように定義されています：

- (12) improve (OALD⁸): to make sth / sb better (sth=something, sb=somebody)
- (13) reduce (OALD⁸): to make sth less or smaller in size, quantity, price, etc.
- (14) downplay (OALD⁸): to make people think that sth is less important than it really is

(12)–(14)の定義の中には形容詞の比較級が用いられていますが、これらの比較級はすべて**同一事物**に関する比較に関わるものです。その「**同一事物**」は、定義中の sth, sb が指すものであり、(11)の例の中では各々の動詞の目的語である the situation, one's weight, nuclear threat によって表されるものです。これらの動詞表現の意味には**同一事物に関する比較が含まれている**ということです。